

滋賀県内の労働災害発生状況

平成20年4月
滋賀労働局

死傷災害は前年より減少、長期的には増加傾向

－交通事故による死亡災害が多発 建設業の死傷災害は大幅減少－

1. 概況

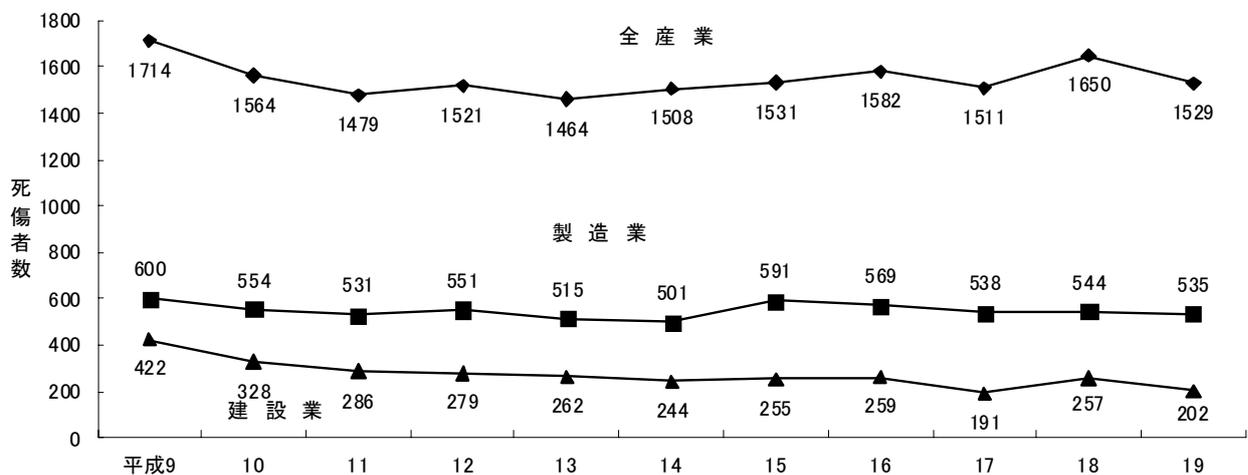
① 災害発生状況

滋賀県内の労働災害による休業4日以上死傷者数は、第1図に示すように、前年よりは減少したものの、平成13年以降増加傾向にある。

平成19年の休業4日以上死傷者数は、全産業では1,529人と前年に比べ121人(−7.3%)の減少となった。

このうち、製造業は535人と前年に比べ9人(−1.7%)、建設業は202人と前年に比べ55人(−21.4%)の減少となった。

<第1図> 休業4以上の死傷者数の推移

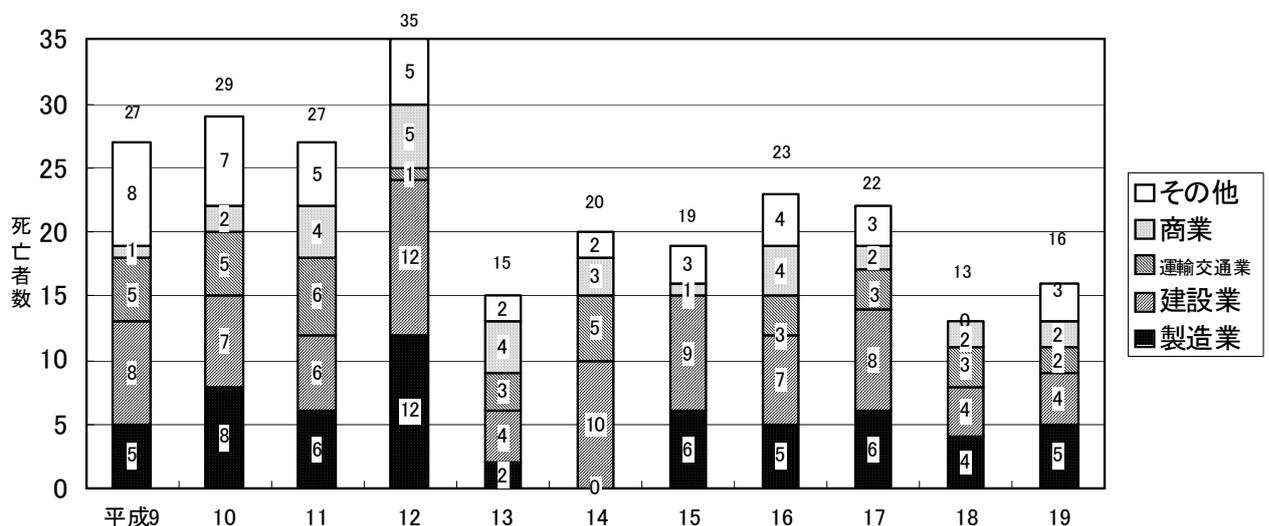


② 死亡災害発生状況

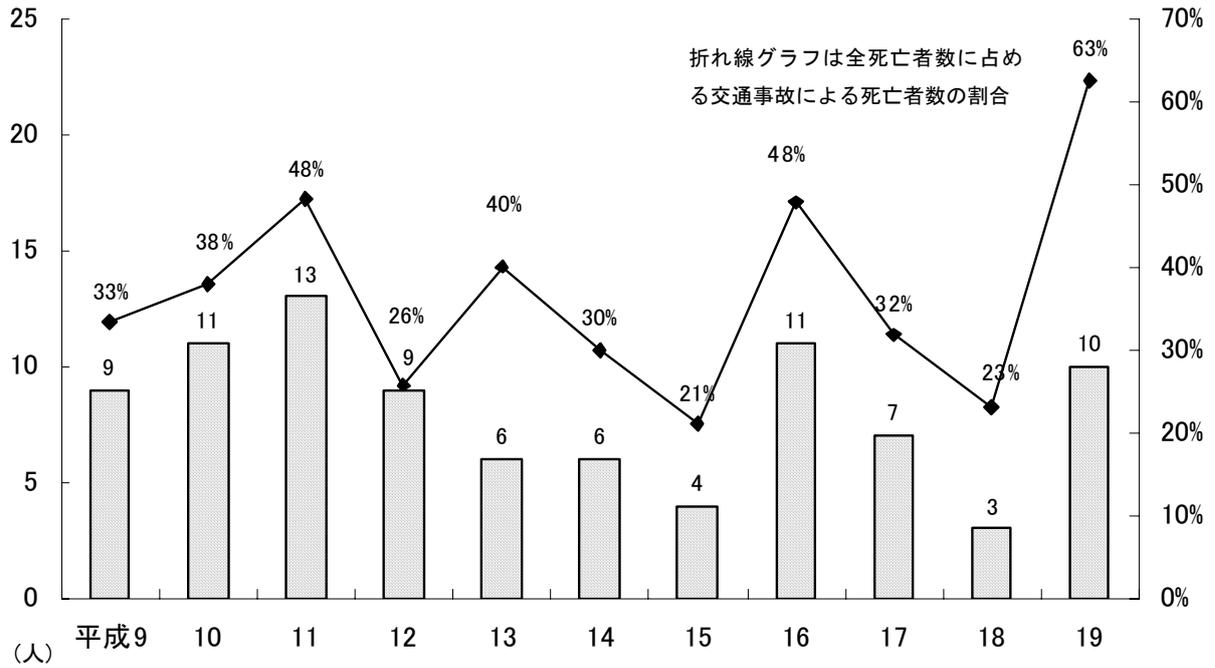
死亡災害は第2図に示すように、ここ数年は増減を繰り返しており、平成19年は16人で、前年に比べ3人増加した。

交通事故による死亡者数は、第3図に示すとおり10人で、前年より大幅に増加した。

<第2図> 死亡者数の推移



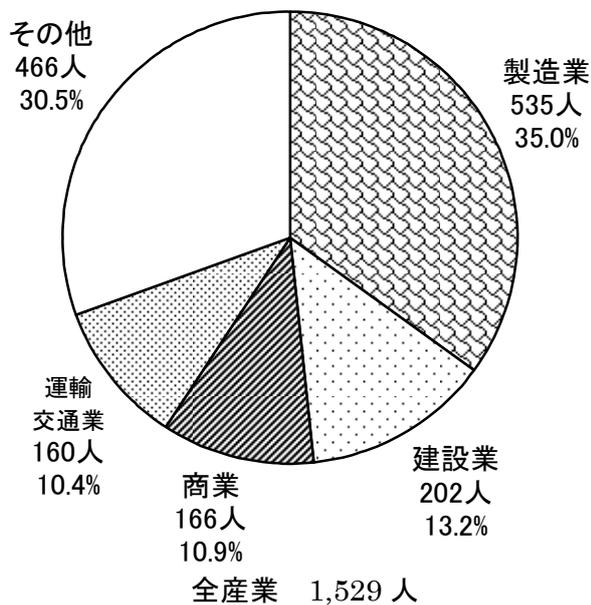
<第3図> 交通事故による死亡者数の推移



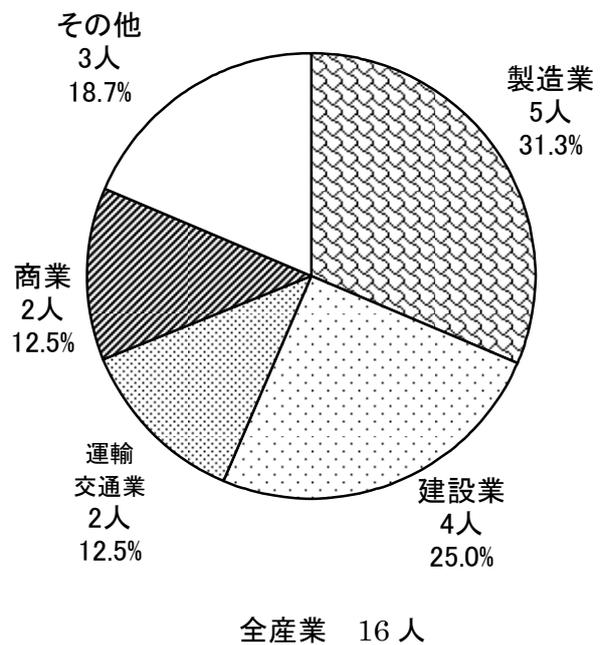
2. 業種別の発生状況 (平成19年)

- ① 休業4日以上死傷者数は、第4図に示すように製造業が35.0%を占め最も多く、次いで建設業の13.2%となっており、この2業種で全体の48.2%と約半数を占めている。また、商業等第三次産業の占める割合も高い。
- ② 死亡者数は、第2図、第5図に示すように、製造業で5人と前年の4人に比べ1人増加した。また、建設業で4人と前年と同人数であった。この2業種で全体の半数を超えている。

<第4図> 業種別死傷災害



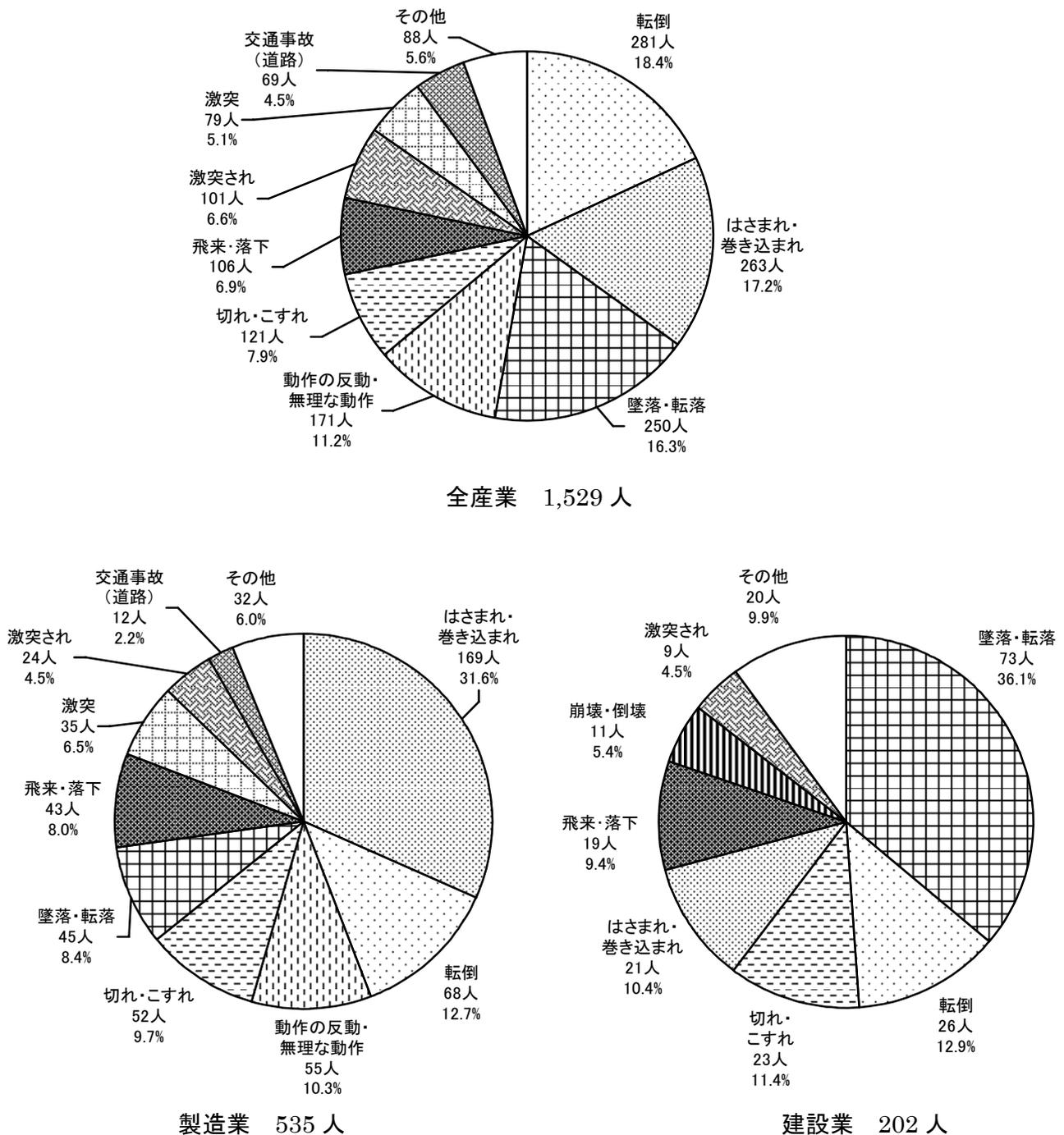
<第5図> 業種別死亡災害



3. 事故の型別の状況（平成19年）

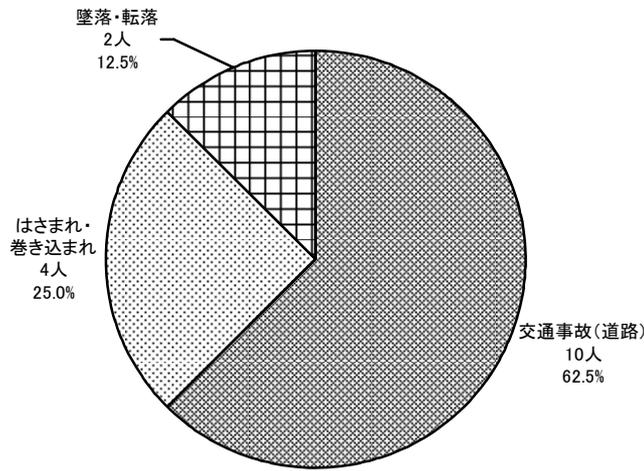
- ① 死傷者数を事故の型別で見ると、第6図に示すように「転倒」が18.4%と最も多く、次いで「はさまれ・巻き込まれ」が17.2%、「墜落・転落」が16.3%の順となっている。
- ② 事故の型別の死傷者数を業種別にみると、製造業では「はさまれ・巻き込まれ」が31.6%と最も多く、次いで「転倒」が12.7%、「動作の反動・無理な動作」が10.3%の順となっている。
また、建設業では「墜落・転落」が36.1%と最も多く、次いで「転倒」が12.9%、「切れ・こすれ」が11.4%の順となっている。

＜第6図＞ 事故の型別死傷災害



- ③ 死亡災害の事故の型別では、第7図に示すように「交通事故（道路）」で10人発生し、次いで「はさまれ・巻き込まれ」で4人発生している。

<第7図> 事故の型別死亡災害



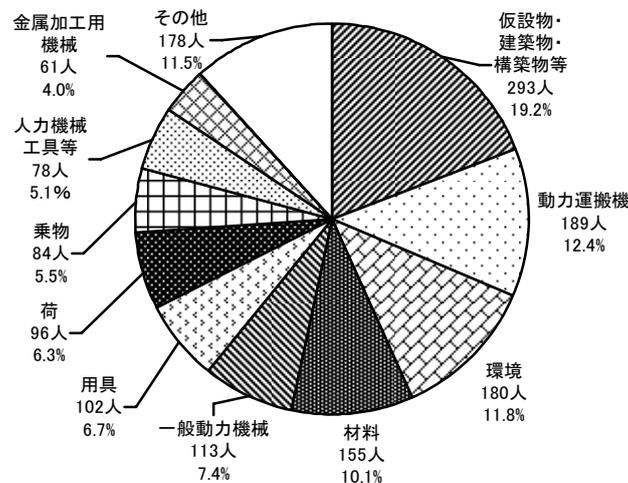
全産業 16人

4. 起因物別の状況(平成19年)

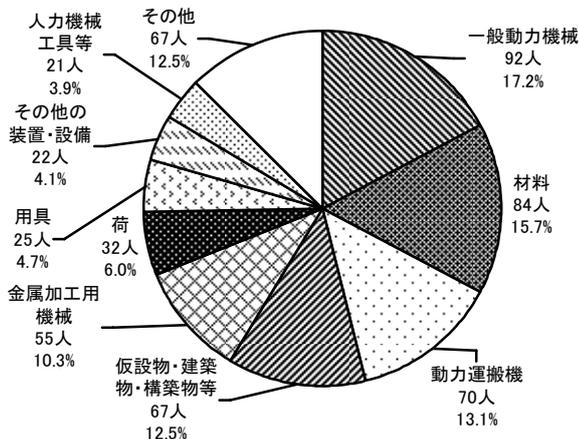
死傷者数を起因物別で見ると、第8図に示すように「仮設物・建築物・構築物等」が最も多く、19.2%を占めている。

製造業では「一般動力機械」に起因する災害が17.2%と最も多く、「材料」が15.7%、「動力運搬機」が13.1%の順となっている。また、建設業では、「仮設物・建築物・構築物等」が最も多く、建設業の約3割を占めている。

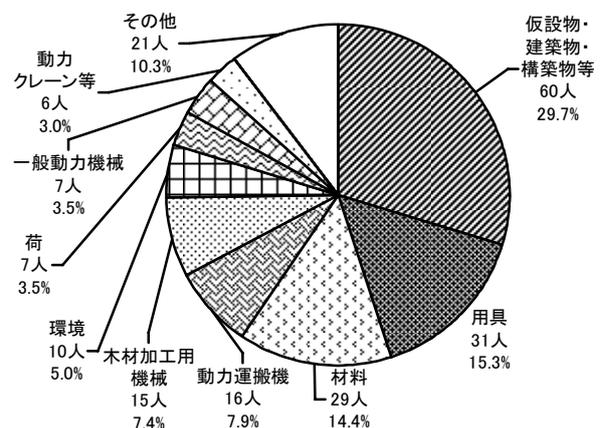
<第8図> 起因物別死傷災害



全産業 1,529人



製造業 535人



建設業 202人